

# 建築物などの整備のための ユニバーサルデザインガイドライン

- このガイドラインは、ユニバーサルデザインを生かした施設整備を図るために必要となる5つの視点を示し、日常生活に密着している6つの整備箇所を取り上げて、それぞれの施設整備における留意点を示しました。
- 6ページ以降は、チェック表として使用できるように作成してありますので、だれでも簡単に身近な建築物のユニバーサルデザイン度を評価できます。また、既存建築物の評価に限らず、建築物の計画時など、ユニバーサルデザインの視点でチェックする際に随時活用してください。

## 5つの視点

<b>公 平（だれもが同じように）</b>	
だれもが同じように施設や設備を利用できる	<ul style="list-style-type: none"><li>・高齢者や障害者、子ども、外国人などの多様なニーズを視野に入れている。</li><li>・基本的にだれもが同じ動線で利用できる経路となっている（特別な経路を設定していない。）。</li><li>・だれもが差別感や疎外感を感じることなく、利用できるようになっている。</li><li>・いくつかの利用手段、使用手段があり、利用者が選択できるようになっている。</li></ul>
<b>簡 単（容易に）</b>	
利用者の知識や能力、状況に関係なく、容易に施設や設備を利用できる	<ul style="list-style-type: none"><li>・人の自然な動きに配慮し、分りやすい配置や経路となっている。</li><li>・施設や設備の利用方法が、簡単で分りやすいようになっている。</li><li>・情報が、必要な場所で適切な方法により入手できる。</li><li>・情報が、重要な順に分かりやすく提供されている。</li></ul>
<b>安 全（危険なく）</b>	
特別な注意を払わなくても、危険なく施設や設備を利用できる	<ul style="list-style-type: none"><li>・だれにとっても、危険なものや場所がないように配慮されている。</li><li>・設備・器具等が安全に操作、利用できるようなにつくられている。</li><li>・うっかりミス等があっても、危険がないように配慮されている。</li></ul>
<b>機 能（使い勝手よく）</b>	
使い勝手よく施設や設備を利用できる	<ul style="list-style-type: none"><li>・どのような体格や身体機能の人にも、利用しやすいスペースや大きさとなっている。</li><li>・押しボタン等の操作系設備の配置は自然な姿勢や動作で利用できるように配慮されている。</li><li>・設備・器具等が、少ない力や自然な動作で利用できるように配慮されている。</li></ul>
<b>快 適（気持ちよく）</b>	
気持ちよく施設や設備を利用できる	<ul style="list-style-type: none"><li>・だれにでも快適さや心地よさが感じられるよう、素材や色使い等が配慮されている。</li><li>・施設全体や周囲との調和に配慮した魅力あるデザインとなっている。</li><li>・生活の豊かさが感じられるような質感の高いデザインとなっている。</li><li>・だれもが疎外感を感じることなく、気持ちよく利用できるようになっている。</li></ul>

